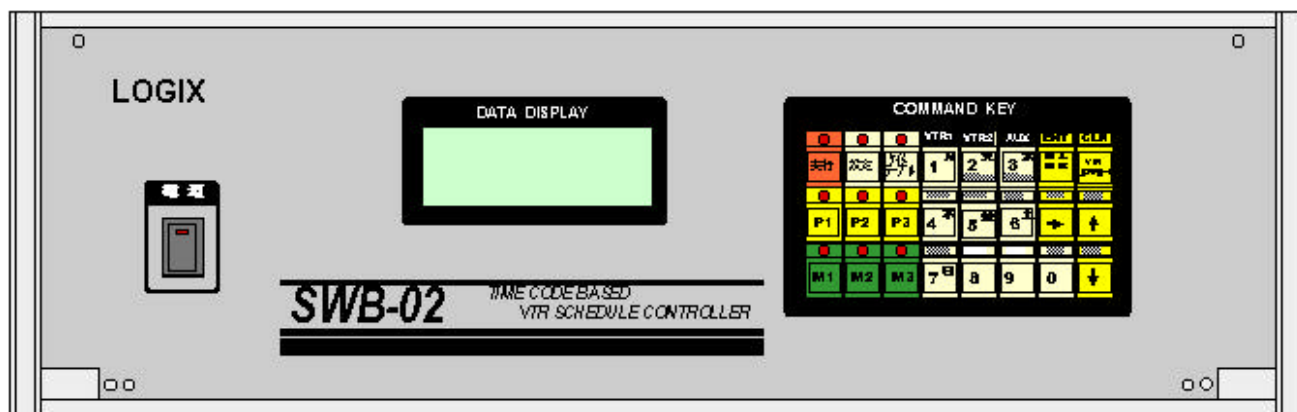


# 自動送出装置 SWB-02 Ver.1.01

## 操作説明書



LOGIX

## 目次

VTR 本体の設定	1
UVW-1200	1
DSR-20	1
9 ピンコントロール系の VTR	1
電源 ON/OFF	1
キー操作について	1
基本的な動作の説明	2
VTR バンクについて	2
AV セレクター	3
画面説明	3
VTR バンクデータ入力	4
タイムテーブルデータ入力	6
Week データの入力	6
Time データの入力	6
タイムテーブルの編集	8
カーソル移動	8
挿入、削除	8
自動計算機能について	8
実行	9
タイムテーブルの 1 行目をタイマーセットしてその時刻からスケジューラを実行する。	9
タイムテーブルの任意の行からすぐに実行する。	9
現在時刻の設定、変更	12
送出装置から VTR を手動でコントロール	13
初期設定	13
データクリア (CLEAR)	15
その他の機能	16
VTR にテープを挿入すると自動的に頭出しを行う。	16
時計校正	16
機器の接続	16
注意事項	17
頭出しエラーについて	17
強制スタートでの注意	17
タイムコードについて	17

## VTR本体の設定

UVW-1200、DSR-20を使用するときはVTRのメニュー設定を次のようにします。

UVW-1200

RS-232C bps                    38400BPS

他は工場出荷時状態

DSR-20

RS-232C BAUD RATE 19200BPS

CLOCK SET で時刻を合わせる

他は工場出荷時状態

DSR-20の電源は送出装置背面のコンセントに接続せず、常時ONのコンセントに直接接続してください。電源制御は通信ポートから行います。

9ピンコントロール系のVTR

工場出荷時状態

9ピン系のコントロールには別途レベルコンバーター **CONV-01** が必要です。

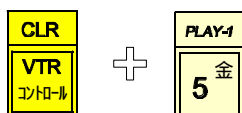
他の設定項目、たとえば、STOP TIMER、STILL TIMER、LOCAL ENABLE等は使用状態に応じて設定してください。

## 電源ON/OFF

電源スイッチを入れることによって電源が入ります。電源を入れるとスイッチのランプが点灯します。

## キー操作について

操作の中であるキーを押しながら別のキーを押す操作があります。たとえば、VTRコントロールキーを押しながら、数字の5キーを押すときは下記のように記述します



## 基本的な動作の説明

- 1．接続された機器に合わせて初期設定を行う。この作業は導入時に行う。
- 2．VTRにセットする全てのテープのタイムコード（番組の開始点、終了点）を入力する
- 3．タイムテーブルを入力する
- 4．実行する

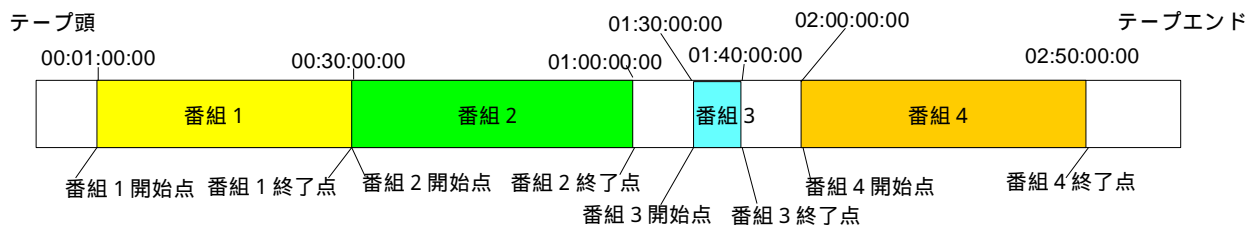
（注意）

タイムテーブルを入力する前に必ず、タイムコードデータを入力して下さい。タイムテーブル入力時、タイムコードデータから次に実行する時間を計算するため、タイムコードデータが入力されてないとタイムテーブルを入力できません。

タイムテーブル入力後にタイムコードデータを変更した場合は、一度タイムテーブル入力モードに入り、変更したソースにカーソルを移動して同じデータを入力してください。タイムコードを変更しただけではその内容はタイムテーブルには反映されません。

## VTR バンクについて

この装置では1つのテープの中に最大9つの番組を記録して、個別に送出することができます。下記にそのイメージを示します。



この図は1本のテープに4つの番組が入っている状態を表しています。このテープをVTR1にセットした場合、それぞれの番組は次のように表します。

番組 1   1-1  
 番組 2   1-2  
 番組 3   1-3

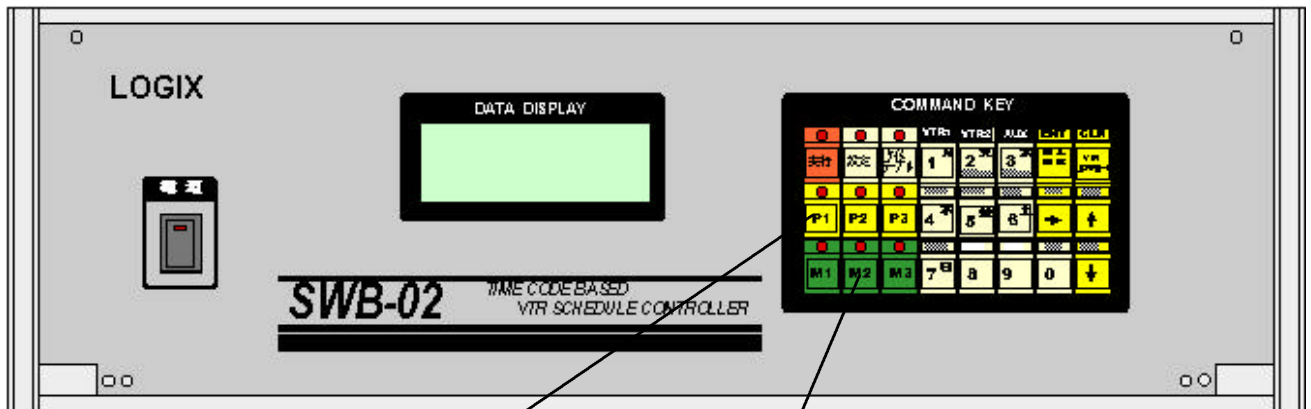
1-1 と表現した最初の1はテープをセットしたVTRの番号を意味し、あとの-1は番組（バンク）の番号を意味します。

VTR1の場合   1-1   ~   1-9  
 VTR2の場合   2-1   ~   2-9   となります。

## (注意)

本装置はタイムコードを基準に運転を行いますので、タイムコードの記録されていないテープは使用できません。

## AV セレクター

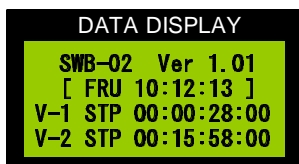


P1, P2, P3 キーを押すと、PROGRAM 出力に VTR1, VTR2, AUX に接続された映像を出力します。

M1, M2, M3 キーを押すと、MONITOR 出力端子に VTR1, VTR2, AUX に接続された映像を出力します。

## 画面説明

動作状態や入力データは全面パネルの液晶ディスプレイに表示されます。



## VTRバンクデータ入力

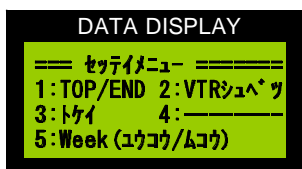
タイムテーブル入力にはいる前にまず、VTRバンクの設定が必要です。  
 ここではテープに記録された番組の頭と終わりのタイムコードを入力します。  
 1本のテープにつき、最大9番組の設定が可能です。



ここでタイムテーブルのキーのランプが点灯していたらタイムテーブル入力状態になっていますのでタイムテーブルキーを押してタイムテーブルキーのランプを消してください。



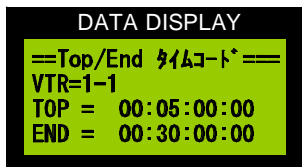
を押します。DATA DISPLAY がつぎのように変わります。



ここで 1:TOP/END を選択するために



を押します。画面が下記のように変わります。



ここでそれぞれの VTR にセットされたテープの番組の開始点と終了点をタイムコードで入力します。入力位置はタイムコードの一番右の数字の下にカーソルが表示されています。タイムコードは下記の数字キーで入力します。

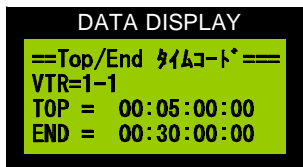
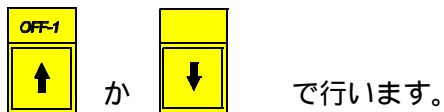
入力方法は電卓と同じでデータを入力することに左側へシフトしながら表示されます。修正するときは

VTR1	VTR2	AUX	
1月	2火 ENT+挿入	3水 ENT+削除	
STOP-1	PLAY-1	REW-1	
4木	5金	6土	
STOP-2	PLAY-2	REW-2	ON-2
7日	8	9	0

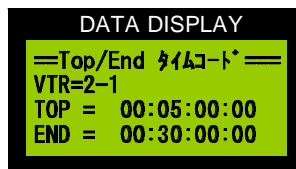
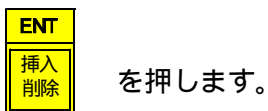


を押してすべてクリアするか、0をいくつか入力した後で新しいデータを入力する

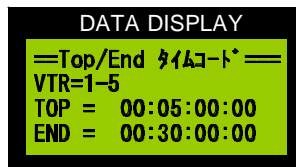
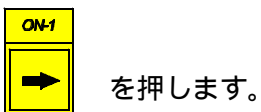
TOP と END を切り替えるときは



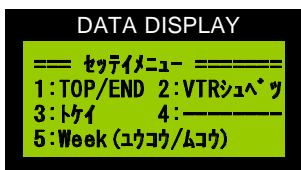
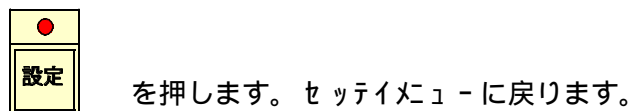
VTR 番号を切り替えるには



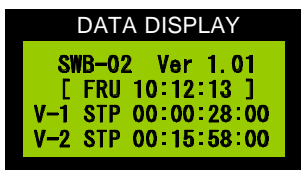
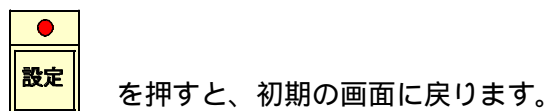
バンク（番組）番号を切り替えるときは



タイムコード入力を終了するときは



ここでもう一度



この画面は実行状態でないときの画面です。実行中は実行状態を表示する画面になります。

## タイムテーブルデータ入力

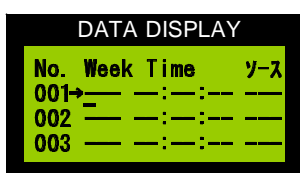
タイムテーブル入力では番組の開始時刻、VTRバンク番号を入力します。

設定により、週データを入力しないモードにすることもできます。VTRバンク番号はあらかじめ入力したVTRバンクデータに基づき入力します。

まず、設定状態なら設定を終了してください。



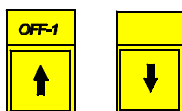
を押します。



タイムテーブルの行番号の右側に矢印があります。この矢印はデータ入力行を意味します。また、矢印のある行の Week データの下にはカーソルがあります。

この矢印とカーソルの指し示しているデータを入力変更する事ができます。

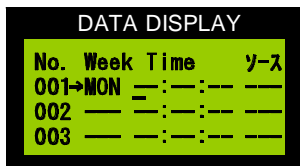
矢印は



キーで動かすことができます。押し続けるとキーリピートが働きスクロールします。最大行は100です。

### Week データの入力

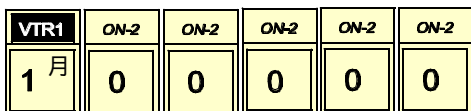
ここに入力するデータは開始したい番組の週のデータです。月曜から、日曜までのデータを次のキーで入力します。



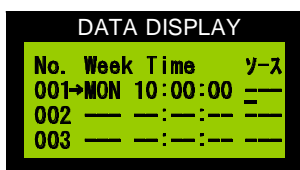
キーを押すと次のように表され、カーソルは TIME のところに移動します。

### Time データの入力

番組の開始時刻を1-0キーで入力します。ここで、10:00:00 と入力してみます。



と続けて入力します。



カーソルはソースのところに進みます。




DATA DISPLAY			
No.	Week	Time	ソース
001	→MON	10:00:00	2-
002	—	—:—:—	—
003	—	—:—:—	—

ここでは放送する番組のVTRバンク番号もしくは外部入力番号をを指定します。ここではVTR2-1を例として入力しますまず、VTRの

番号の  を押します。

カーソルはバンク番号（番組番号）のところに進みます。

ここで  を押します。表示は左のように変わります。

DATA DISPLAY			
No.	Week	Time	ソース
001	MON	10:00:00	2-1
002	→MON	10:30:00	—
003	—	—:—:—	—

2行目のWeekとTimeはあらかじめ入力したタイムコードデータから計算されて自動的に表示されます。

もし、必要なら手でカーソルを移動して手入力することもできますが、スケジュールに整合性がなくなる可能性があります。

次にVTR1-1を例として入力してみます。

DATA DISPLAY			
No.	Week	Time	ソース
001	MON	10:00:00	2-1
002	MON	10:30:00	1-1
003	→MON	11:30:00	—



と続けて入力します。画面は左のように変わります。

(注意)

同じVTR番号を続けて入力することはできません。これは同じVTRのアドレスから違うアドレスへ瞬時にアクセスできないためです。

次にAUXを例として入力してみます。



を押します。画面は左のように変わります。

DATA DISPLAY			
No.	Week	Time	ソース
002	NON	10:30:00	1-1
003	MON	11:30:00	AUX
004	→	—:—:—	—

AUXの場合、タイムコードデータがありませんから、次の開始時刻の計算はできません。カーソルは次の行のWeekデータのところに進みます。

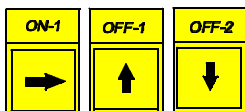
この入力の繰り返しでタイムテーブルを入力します。

## タイムテーブルの編集



を押すとタイムテーブル入力を終了します。

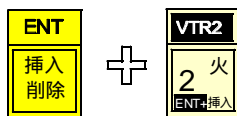
### カーソル移動



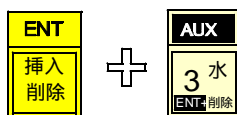
これらのキーを押すとカーソルが移動します。

キーは押し続けるとリピートが働き、スクロールすることができます。

### 挿入、削除



カーソル行に 1 行空行を挿入します。自動計算が ON になっている場合は挿入場所によって時刻フィールドが表示されます。



カーソル行を 1 行削除します。削除された行より下の行は 1 行繰り上がり、時刻の再計算が行われ表示されます。

#### (注意)

デリート、インサート、行うとソース番号の同じものが続けて設定されるような、整合性が失われることがあります。このような設定で実行したときは、動作がおかしくなります。

### 自動計算機能について

タイムテーブル入力の手間と、ミスを防ぐために VTR 番組に関しては、VTR バンクデータから番組の長さを計算し、次に実行する番組の開始時刻を自動的に表示します。AUX の入力の場合は、番組長さのデータがありませんので、次の開始時刻は必ず手入力する必要があります。

ただし、VTR 番組の場合も自動計算されたデータを手入力で編集すると、計算されたデータとは違う時刻を入力することができます。ここで、自動計算された時刻より、手前の時刻を入力したときは番組が早く終わるだけで問題ないのですが、その時刻より後の時刻を設定したときは、送出する番組がなくなることになりますので、基本的にエラーとなります。

ただし、手動入力したデータもそれより上の行を編集した場合、自動計算で書き換えられますので、基本的には自動計算のデータで運用することをお勧めします。

## 実行

タイムテーブルの入力が終了したらスケジューラを実行することができます。

実行には次の2通りがあります。

**タイムテーブルの1行目をタイマーセットしてその時刻からスケジューラを実行する。**

(1) タイムテーブル入力を終了する

(2)  を押す

DATA DISPLAY		
000	MON 09:30:35	—— 現在時刻
001	MON 10:00:00 2-1	—— 次の実行予定行、時刻、VTR
V-1	—— 00:00:58:00	—— VTR1の現在のタイムコード
V-2	STP 00:01:58:00	—— VTR2の現在のタイムコード

—— VTRの状態 (----:OFF、STP:ストップ、PB:PLAY、サーチ)

次の実行予定時刻になるまで、AUXの状態で待機します。

実行予定時刻25秒前になると次に実行する装置を起動します。

### タイムテーブルの任意の行からすぐに実行する

タイムテーブル入力モードに入り実行したい行へカーソルを進めます。

例として2行目から実行します。カーソルを2行目に移動します。

DATA DISPLAY			
No.	Week	Time	ソース
001	SAT	10:00:00	1-1
002	SAT	10:30:00	2-1
003	SAT	10:50:00	AUX

ここで  を押します

NEXT-TIMER には3行目のセットアップ時刻が表示されます。

2行目に切り替わり開始までのダウンカウントタイマーが表示されます。

DATA DISPLAY	
000 MON 09:30:35	—— 現在時刻
キリカワマテ [ 24.5sec ]	—— 切り替わりまでの残り時間
V-1 --- 00:00:58:00	—— VTR1の現在のタイムコード
V-2 サチ 00:01:58:00	—— VTR2の現在のタイムコード

—— VTRの状態 (---:OFF、STP:ストップ、PB:PLAY、サチ)

ダウンカウントが2secになった時点で、VTRはプレイがかかります。  
そしてダウンカウントが0になると同時にAVスイッチャーが切り替わります。  
表示は下記のように実行しているソース(VTR)の内容が変わります。

DATA DISPLAY	
002 MON 09:45:20	—— 現在時刻
003 MON 11:30:00 AUX	—— 次の実行予定行、時刻、VTR
V-2 PB 00:03:15:05	—— 実行中VTRの現在の状態とタイムコード
End T/C>01:01:00:00	—— 実行中VTRのENDタイムコード

#### (ヒント)

この強制スタートを行うとスケジュールの実行を変更できます。タイムテーブルを変更した場合など、現在実行中の行にカーソルをあわせて強制スタートすると、タイムテーブルのその後の調整が行われます。実行中にタイムテーブルの変更をしたときにはこの作業を行います。

#### (注意)

任意の行から実行する強制スタートはタイムテーブルに記述された時刻とは無関係に実行を行います。その後の時間的なつながりは確認が必要です。

強制スタートを行うと時間のずれが発生します。次の2とおりの動作が考えられます。

##### (1) 本来の時刻よりも早く起動をかけた場合

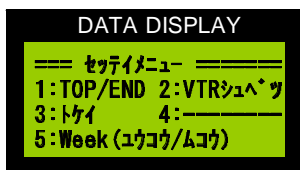
この場合は次の行のスタート時刻が来るより早めに番組が終了することになります。この場合、エンドタイムコードまで再生した時点で一時的にAUXに切り替え、次の行の実行開始まで待機します。

##### (2) 本来の時刻よりも遅く起動をかけた場合

この場合は次の行のスタート時刻になるまでにすべての番組を送出することができません。次のスタート時刻になった時点でそのソースに切り替わります。番組は途中で切れることとなります。

本来の時刻より遅く強制スタートをかけることはあまりあり得ないことだと思いますが、  
いずれにしても、強制スタートを行った後は送出時間の調整を行ってください。

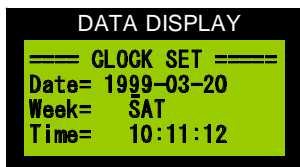
## 現在時刻の設定、変更



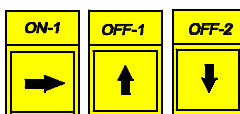
を押してセッテイメニューにはいります。



を押します。

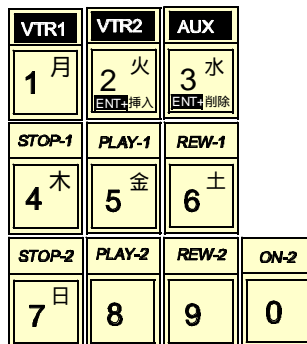


年の下にカーソルが表れます。カーソルは



で移動できます。

目的の場所でデータを入力します。



入力を終わるときは



のどちらかをを押します。

その時点から秒針が動作を始めます。

### (ヒント)

この装置には内蔵時計を外部から校正する機能があります。装置背面パネルの校正端子をショートする事で内部時計の30秒校正をすることができますので、外部校正時計が接続されてないときには、この端子にスイッチを取り付けるだけで簡易校正が可能になります。この場合、時報と同時にスイッチを押すと内部の時計が0秒に校正されます。

## 送出装置から VTR を手動でコントロール



を押しながら か を

押すと、対応した VTR が STOP 動作をする



を押しながら を

を押すと、対応した VTR が PLAY 動作をする。



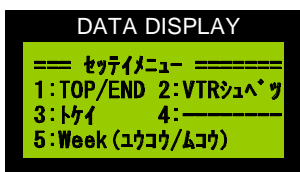
を押しながら か を

押すと、対応した VTR が頭出し動作をする

頭出し動作は次に実行予定の VTR バンク番号に対応したタイムコード位置となります。

頭出し動作は、VTR にテープを挿入することでも行われます。

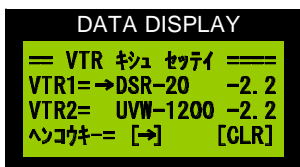
## 初期設定



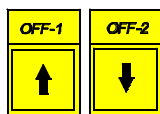
を押してセッテイメニューに入ります。



を押して 2:VTR 機種設定メニューに入ります。

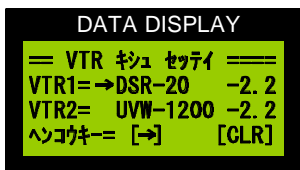


この項目では VTR の種類とそのタイミングを設定します。



で VTR1、VTR2 の切替をします。矢印カーソルが移動します。

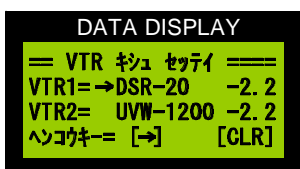
こでもしくはを押



を押すと VTR の種類を変更できます。

VTR の種類は次の通りです。

- DSR-20                    RS232C インターフェース
  - UVW-1200                RS232C インターフェース
  - 9P プロトコル          RS422 インターフェース
- DSR-20,UVW-1200,UVW-1400 は専用ケーブルでダイレクト接続可能です。9P プロトコル機種(DSR-60,PVW-2600 など)はレベル変換ボックス(CONV-01)が別途必要です。



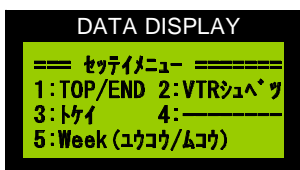
を押すと VTR ごとのスイッチングタイミング調整データの変更ができます。

VTR 機種種の右側の数値は切り替え時刻何秒前に VTR をプレイするかという値です。

VTR はスタートアドレスの 2 秒前に頭出しをするようになっていますので、初期値は-2.2 です。2 . 2 秒前にプレイにすると切り替え時刻になったときほぼ、スタートアドレスと同じになります。



を押すと、機種設定を終了しセッテイメニューに戻ります



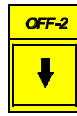
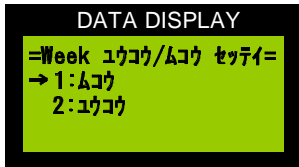
次にタイム-ブル入力時Week データを入力する課しないかの設定をします。



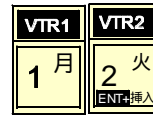
を押します。



Week 有効 / 無効設定画面になります。



もしくは



で矢印カーソルを移動

し有効か無効かを設定します。

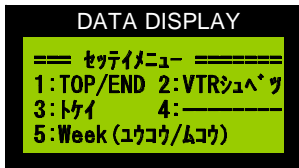


を押すと、機種設定を終了しセッテイメニューに戻ります

もう一度



を押すと、初期画面に戻ります。



## データクリア (CLEAR)



を押しながら電源を入れるとすべてのメモリーを初期化します。

## その他の機能

### VTRにテープを挿入すると自動的に頭出しを行う

VTRの電源を入れテープを挿入すると自動的に頭出しを行います。

UVW-1200は電源を入れて5秒以上たってからテープを入れて下さい  
早めに入れると頭出しをしません。その場合は手動で頭出しして下さい。

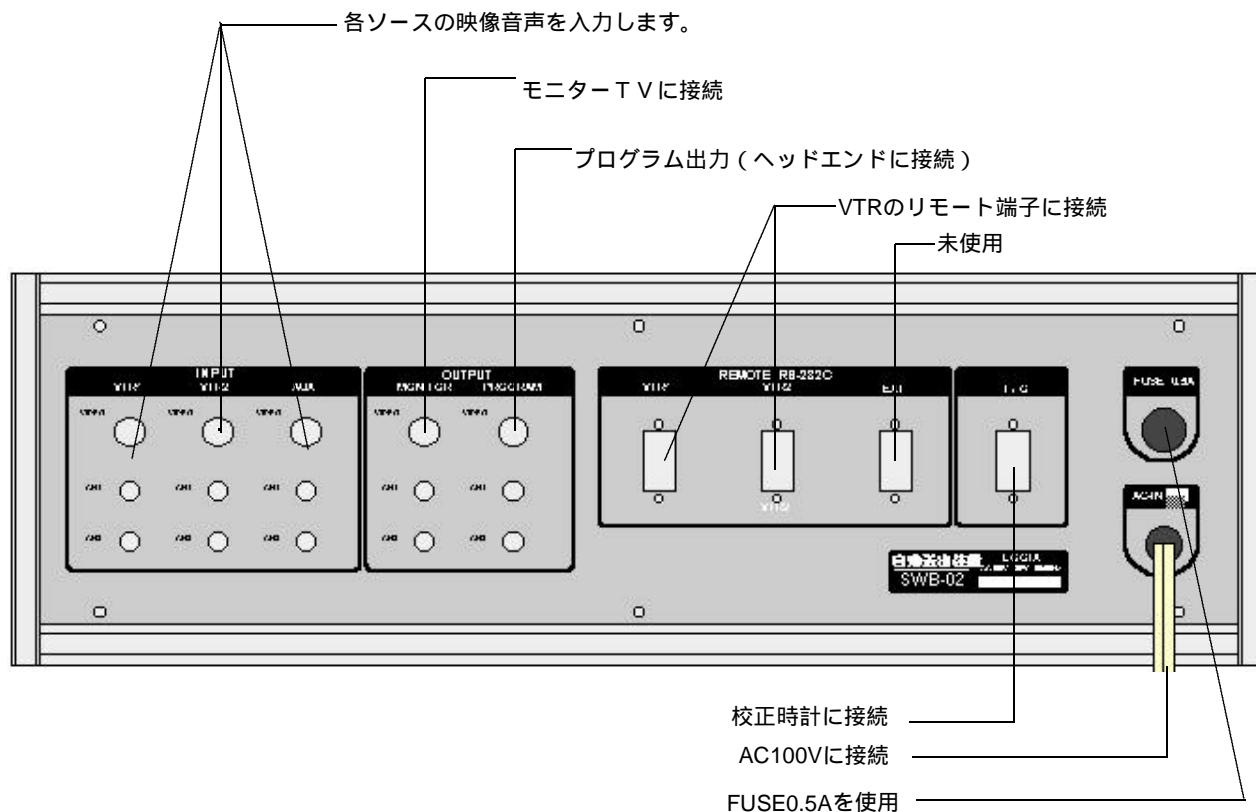
(注) テープには必ずタイムコードが入ったものを使用してください。テープを挿入したところにタイムコードがなければ頭出しはできません。

タイムコードは番組の始めと終わりに少なくとも30秒以上の記録が必要です。  
できるならばテープの最初から最後まで記録することをお勧めします。また、タイムコードはテープ上で連続したものでなければ使用できません。不連続部分にまたがって使用した場合、動作がおかしくなることがあります。

### 時計校正

リヤパネルの I/O コネクタの1番と2番をショートすると30秒校正を行います。  
ここに校正用時計を接続します。

## 機器の接続



## 注意事項

### 頭出しエラーについて

VTRにテープを挿入すると自動的に頭出しを行います。また、番組送出が終わったVTRは次の送出に備えて頭出しを行います。手動でも頭出しが可能です。

頭出しはタイムコードを基準に行いますから、指定したタイムコードがテープに見つからない場合はエラーとなります。エラーの場合は該当VTRのタイムコードステータス表示が赤色に変わりアラームがなります。この場合はテープと、設定タイムコードが正しいか確認をしてください。エラーの場合頭出しを3回リトライし、その後はエラー状態を維持します。

エラーの原因を修正したら、手動頭出しを行うことでエラーは消えます。もしくは、テープを取り出し再度挿入すると頭出しを行います。

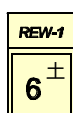
タイムコードはテープの始めから終わりまで連続して記録してください。プリロール、ポストロールのためタイムコードは番組より前後30秒以上必要です。

### 強制スタートでの注意

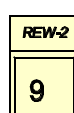
任意の行から強制スタートをする場合は次の点に注意してください。VTR-BANKを1本のテープに対して複数指定しているときは強制スタートをした後次の頭出し位置を確認する必要があります。タイムテーブルを順番に実行している時は、つぎのVTRの頭出しは正しく行われ、待機状態になっているのですが、任意の行から実行するときはその後に実行されるものが頭出しができていないとは限りません。強制スタートをした後、その後に実行されるすべてのVTRの電源を入れ



を押しながら



か



を押すと、対応したVTRが頭出し動作をします。

### タイムコードについて

テープには必ずタイムコードが入ったものを使用してください。テープを挿入したところにタイムコードがなければ頭出しはできません。

タイムコードは番組の始めと終わりに少なくとも30秒以上の記録が必要です。できるならばテープの最初から最後まで記録することをお勧めします。また、タイムコードはテープ上で連続したものでなければ使用できません。不連続部分にまたがって使用した場合、動作がおかしくなることがあります。